

ロジックモデルについて

1 国の動向

厚生労働省局長通知「医療計画について」(抜粋) 令和5年3月31日

医療計画の実効性を上げるためにには、具体的な数値目標の設定と評価を行い、その評価結果に基づき、計画の内容を見直すことが重要である。評価に当たっては、策定に関わった者以外の第三者による評価の仕組みを取り入れること等も有効である。

さらに、施策及び事業の評価の際には、施策及び事業の結果(アウトプット)のみならず、地域住民の健康状態や患者の状態や地域の医療の質などの成果(アウトカム)にどのような影響(インパクト)を与えたかといった観点から、施策9の検討時に用いた**ロジックモデル等のツールを再度活用すること**により施策及び事業の評価を行い、必要に応じて計画の内容を改善することが重要である。

- 健康日本21(第三次)推進のための説明資料においても循環器病分野、糖尿病分野でロジックモデルが示されている(健康おきなわ21(第3次)の進捗管理でも活用)
- 沖縄県では第7次医療計画、第4期がん対策推進計画でロジックモデルが導入されている。

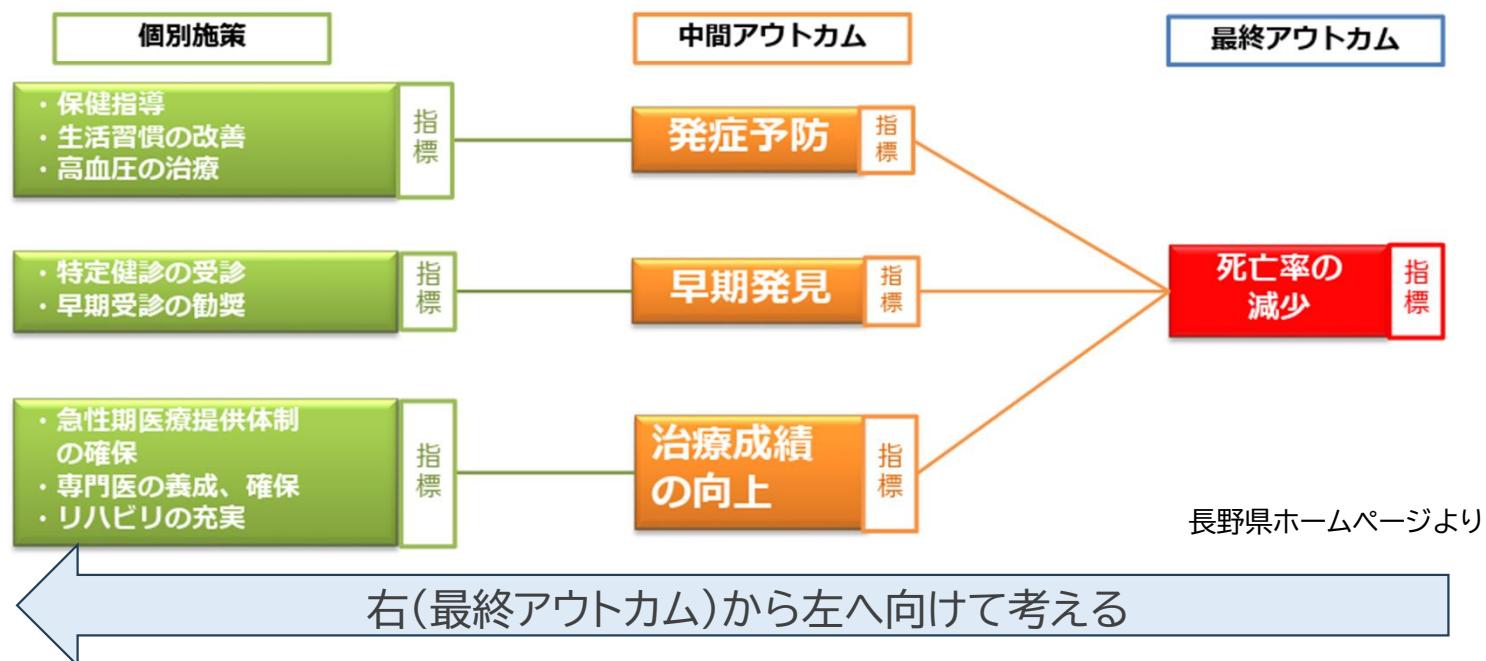
2 ロジックモデルの概要

○ロジックモデルとは

計画の目標である長期成果（最終アウトカム）を設定した上で、それを達成するために必要となる中間成果（中間アウトカム）を設定し、当該中間成果を達成するために必要な個別施策を設定する等、計画が目標を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したもの。

（「都道府県循環器病対策推進計画の策定に係る指針」令和2年10月29日厚生労働省健康局がん・疾病対策課長通知）

【ロジックモデルのイメージ図】

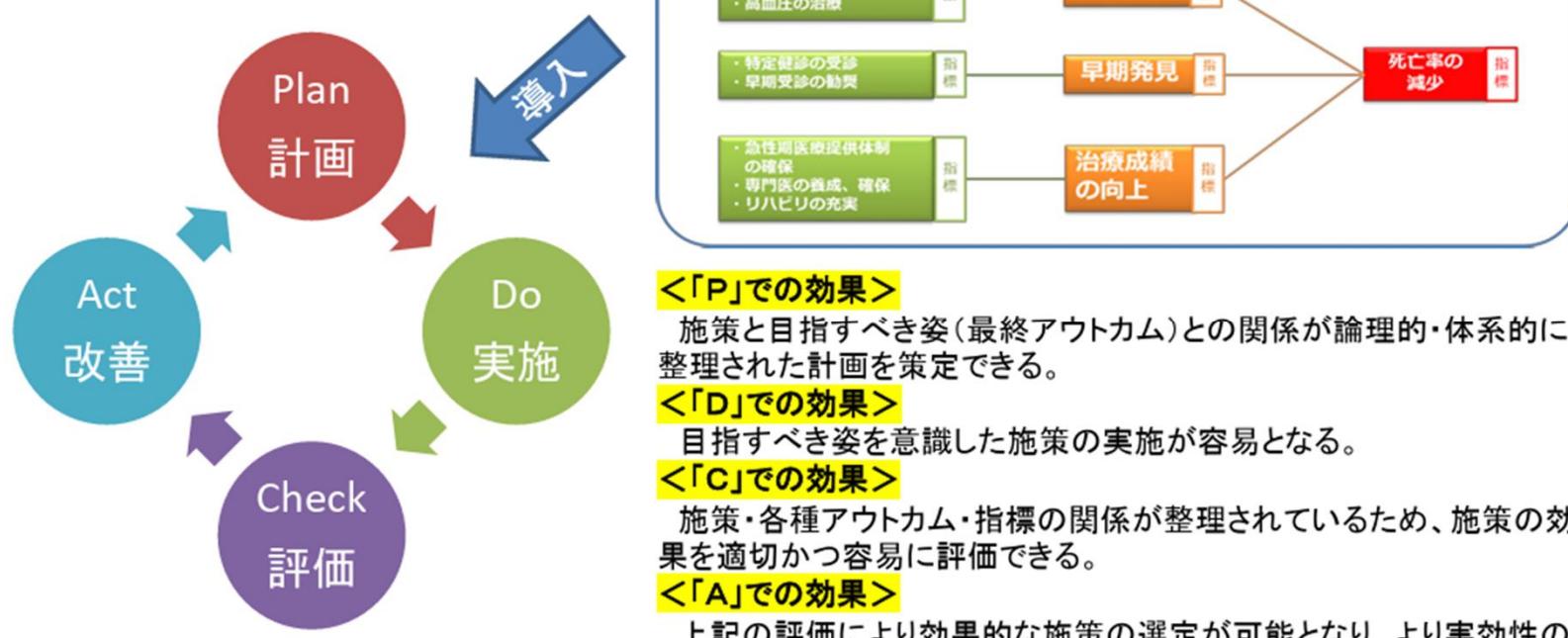


3 ロジックモデル導入のメリット

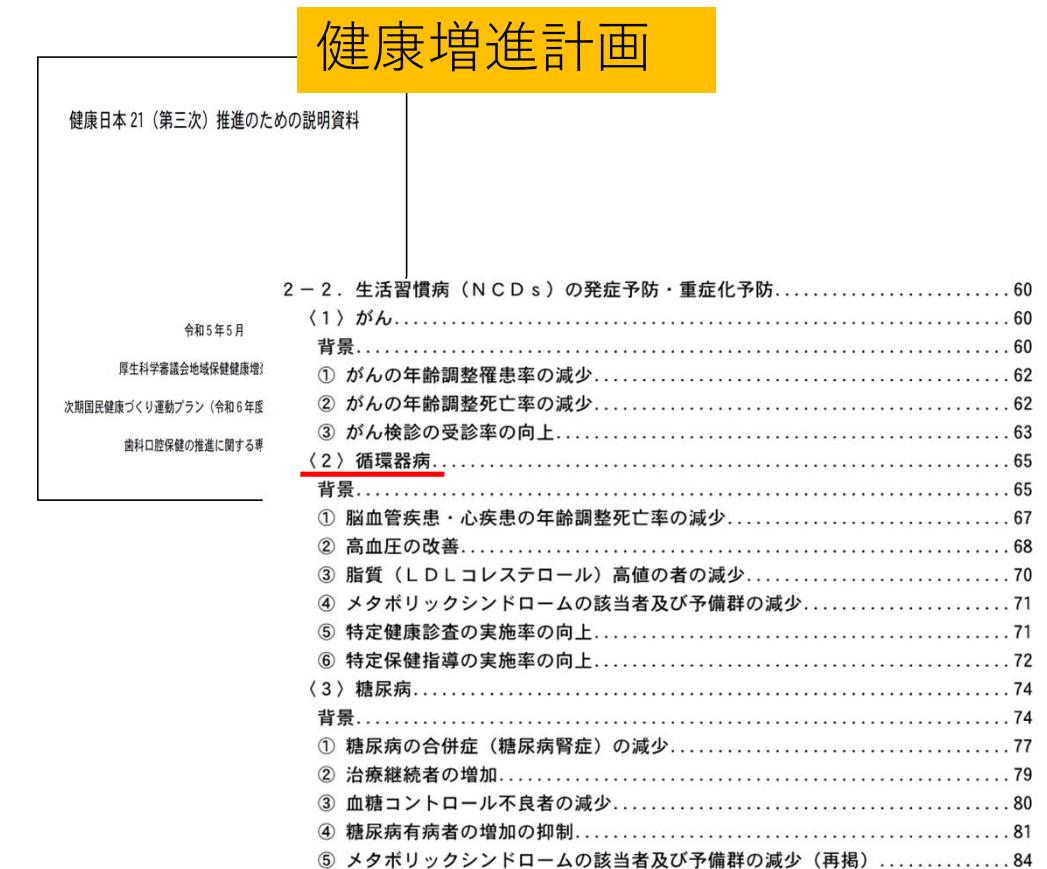
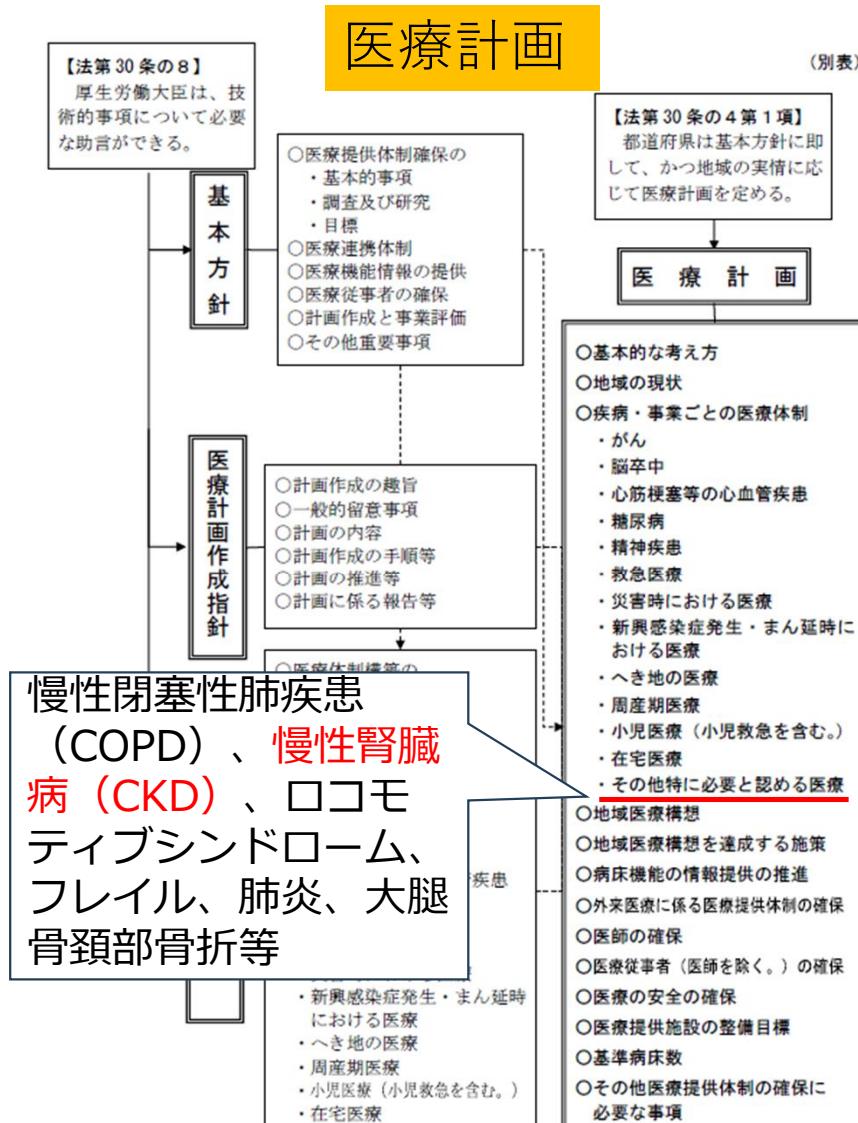
○ロジックモデル導入のメリット（導入自治体の感想）

長野県ホームページより

- ・目標や指標を体系的に整理することでPDCAサイクルが強化され、計画の実効性が向上する
- ・計画の全体像や最終目標が共有され、審議会等の議論が活性化する
- ・引継ぎ等が容易になり、政策の継続性が担保される 等



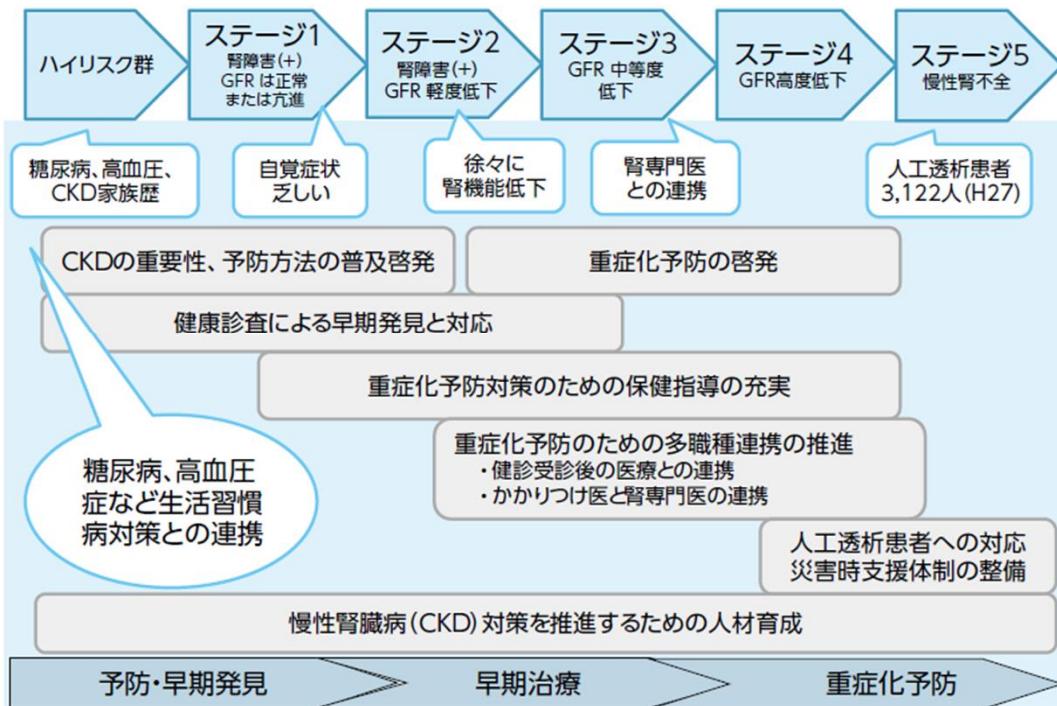
4 各種計画の位置づけ



なお、新規透析導入患者の原因疾患としては糖尿病腎症が最多であるものの、腎硬化症も近年増加傾向にあり（図表2）、健康づくりによる予防の観点からCKD（慢性腎臓病）を減少させていくためには、循環器病領域で目標として設定した高血圧や脂質異常症に関する対策も重要である。

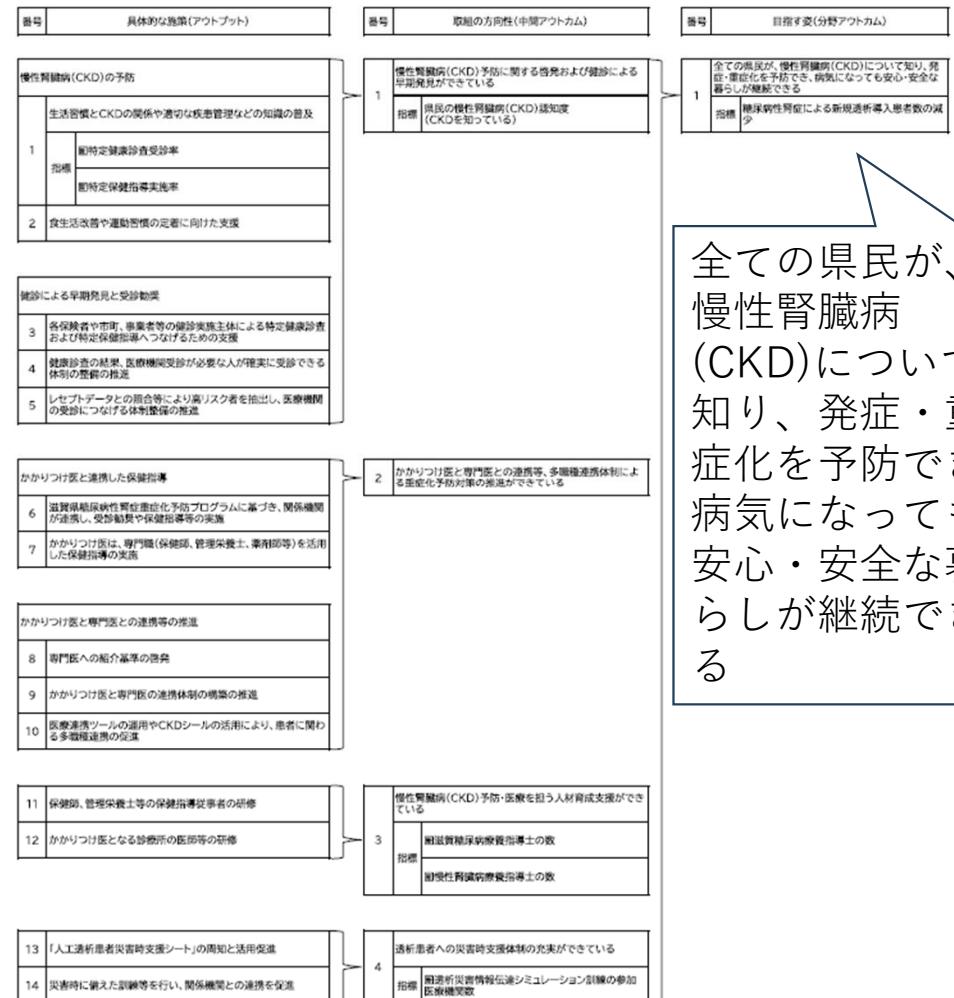
5 慢性腎臓病(CKD)のステージと施策の方向(滋賀県保健医療計画抜粋)

図3-3-14-3 慢性腎臓病(CKD)のステージと施策の方向



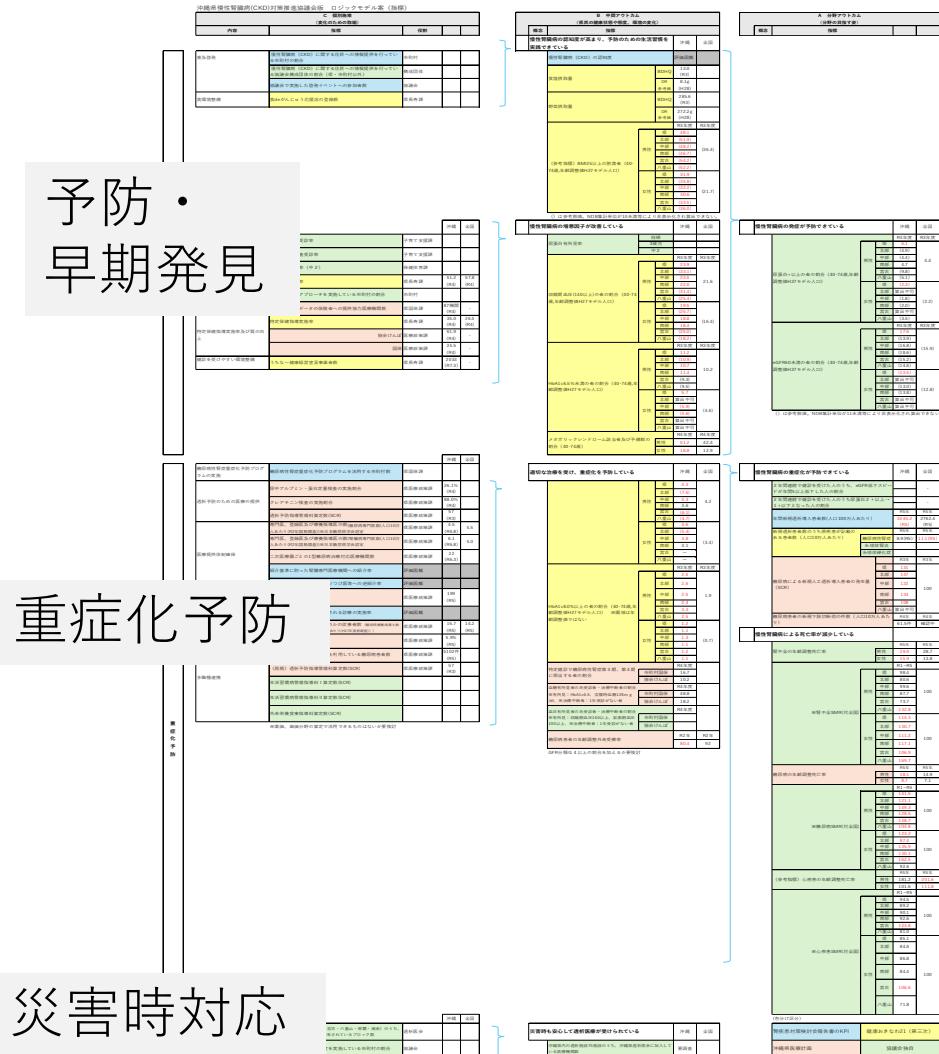
▶ 滋賀県、新潟県では医療計画の中で糖尿病と一緒に慢性腎臓病対策が記載されている

『ロジックモデル』糖尿病



全ての県民が、慢性腎臓病(CKD)について知り、発症・重症化を予防でき、病気になっても安心・安全な暮らしのが継続できる

6 沖縄県慢性腎臓病(CKD)対策協議会での活用



色分け区分

腎疾患対策検討会報告書のKPI	健康おきなわ21（第三次）
沖縄県医療計画	協議会独自

- ✓ 第8次沖縄県医療計画ではロジックモデルが活用されている
- ✓ 沖縄県健康増進計画「健康おきなわ21(第3次)」の進捗管理についてロジックモデルを活用することとしている
- ✓ 関連計画等を包含するロジックモデル（協議会版）を作成してはどうか